

タンチョウ

タンチョウ（学名: *Grus japonensis*）は、日本に住んで繁殖を行う唯一のツルです。北海道東部には一年中タンチョウが生息していますが、ユーラシア大陸のタンチョウは渡り鳥です。タンチョウの頭頂部は、赤い皮膚がむき出しになっているのが特徴です。タンチョウは、日本の伝統芸術で広く見られる主題であり、長寿と幸福の象徴です。

江戸時代（1603～1867年）の間、タンチョウは東日本中で見られました。しかし、捕獲され、生息環境が失われることにより、時とともにタンチョウの数は減少しました。20世紀初頭までに、日本に住むタンチョウは絶滅したと考えられるようになりました。しかし、1924年に、釧路湿原に生息している10羽ほどのタンチョウの群れが発見されました。タンチョウの数は、冬季に餌をやり保護計画を実行することで、約1,800羽まで増加しています。タンチョウは、特別天然記念物として保護されています。この博物館では、四季を通じたタンチョウの生活環について（冬季の複雑な求愛ダンスなど）展示を行っています。